

平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 9 月成魚調査 速報

●実施状況

9 月 17 日の成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。調査当日は中潮で満潮 6 時 54 分、干潮 12 時 59 分（東京都港湾局のデータ）であった。当日は終日雨天で、調査時間帯は北よりの風が 5.8~7.0m/s とやや強く、波高は 0.2~0.3m であった。各調査地点の下層水は、St. 35 を除き溶存酸素濃度（DO）が 1.5mg/L 未満であり、貧酸素状態であった。下層水の DO が 3.2 mg/L であった St. 35 のみ、魚を確認した。

調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	15:32~15:42		14:42~14:52		13:45~13:55		11:52~12:02	
水深(m)	7.2		13.8		16.4		25.5	
天候	雨		雨		雨		雨	
気温	20.0		20.3		20.3		20.3	
風向/風速(m/s)	N/5.8		N/7.0		N/6.5		NNW/6.1	
波浪(m)	0.2		0.3		0.2		0.3	
水色	濃(暗)・緑褐色		濃(暗)・灰黄緑色		中・緑褐色		中・灰黄緑色	
透明度(m)	1.7		1.9		1.2		1.6	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	23.1	23.8	23.0	22.7	22.2	22.3	22.8	20.0
塩分	22.7	29.8	20.9	22.7	13.8	33.2	20.7	34.0
pH	8.9	8.4	8.8	8.3	8.7	8.0	8.8	8.2
DO(mg/L)	7.9	1.4	7.6	0.2	9.1	0.4	7.8	3.2
臭気	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し
備考								

観測層：上層(0m)・下層(海底面-1m)

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順 ^注)	採取魚なし	採取魚なし	採取魚なし	アカエイ (r)
				シログチ (r)
魚類以外	ホンビノスガイ (+)	なし	ミズクラゲ (r)	なし
備考	ホンビノスガイの殻多し	トリガイの殻多し	チヨノハナガイの殻多し	

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

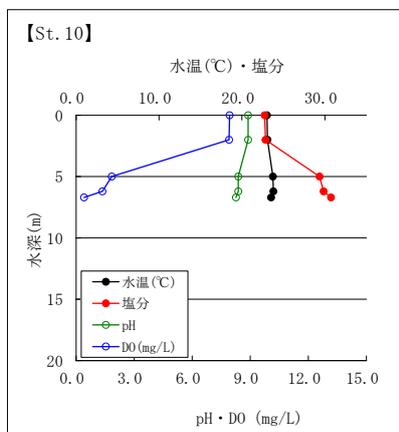
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

St. 10

調査地点位置



水質の状況



水深は 7.2m で、溶存酸素は 5m 以深では急激に低下し、下層の水深 6.2m で 1.4mg/L、海底直上の 6.7m では 0.4mg/L 貧酸素状態であった。

ディズニーランドの岸寄りに位置する。採取物は大量のホンビノスガイの殻の中に少量の生きた個体が確認されたのみで、魚類は確認されなかった。下層水の溶存酸素は 1.4mg/L とかなり低い状況であった。

採取試料



上の試料から選別した生貝。今では東京湾にすっかり定着して、店頭で販売されているが、もともと北米原産の外来の二枚貝。貧酸素にも比較的強い種類である。写真の個体はいずれも、1 個体約 150g 以上の大型のものであった。

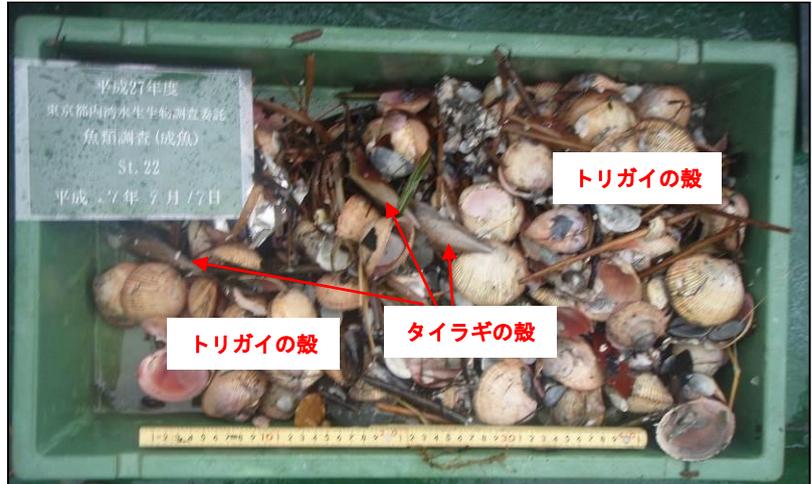
St. 22

調査地点位置

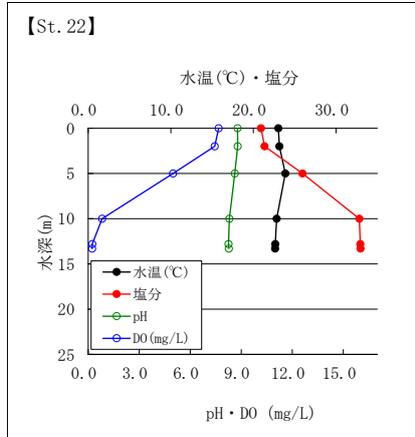


ディズニーランドの約 3km 沖合に位置する。大量のトリガイの殻と少量のタイラギの殻が採取された。魚類および他の底生生物等は確認されなかった。下層水の溶存酸素は 0.2mg/L と極端な貧酸素状態であった。

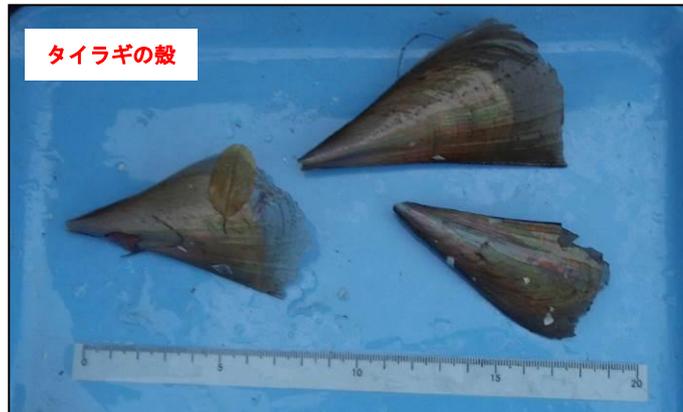
採取試料



水質の状況



水深は 13.8m で、溶存酸素は 5m 以深では急激に低下し下層の水深 12.8m 以深では 0.2mg/L と極端な貧酸素状態であった。



St. 25

調査地点位置

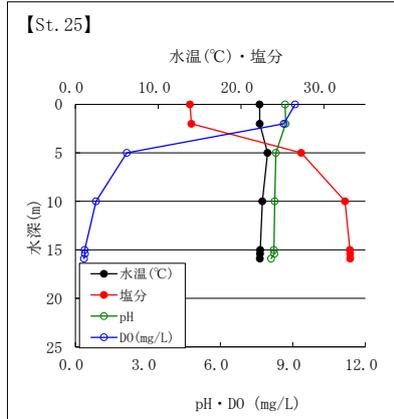


羽田空港の北東に位置する。採取試料内に魚類は確認されず、その他の生物として少量のミズクラゲが確認された。多量のチヨノハナガイの殻に混じって、魚(種不明)の腐乱死体の一部が確認された。下層水の溶存酸素は0.4mg/Lと極端な貧酸素状態であった。

採取試料



水質の状況



水深は16.4mで、溶存酸素は5m以深では急激に低下し、下層の水深15.2mで0.4mg/L、海底直上の15.9mでは0.3mg/L 貧酸素状態であった。



St. 35

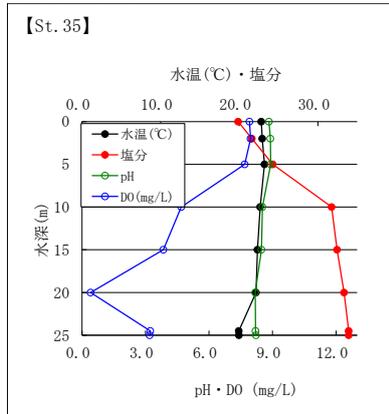
調査地点位置



東京湾横断道の川崎人工島（風の塔）の北東に位置する。魚類はアカエイとシログチが各1個体確認された。その他の生物は確認されず、少量のタイラギの殻が確認された。下層水の溶存酸素は3.2mg/Lとやや低い貧酸素状態ではなく、魚類が確認されたのはこれに起因すると思われる。

採取試料

水質の状況



水深は25.5mで、溶存酸素は5m以深で徐々に低下し、水深20mで一旦0.4 mg/Lの貧酸素状態となるが、下層の水深24.5mでは、3.2mg/Lと上昇した。これは、東京湾口方向からの潮流により、溶存酸素の高い水塊が流入したためと推定される。



沿岸の砂泥底に多く生息するエイ。東京湾奥部に非常に多く大型に成長する。尾部に毒針を持ち、刺されると非常に痛い。お台場海浜公園等にも確認され、注意が必要である。



周辺の状況

調査地点からは川崎人工島がかなり大きく見えるが、当日はややかすんだ状態であった。



シログチ

東京湾の砂泥底に多く生息する、底生性の魚類で、浮き袋で音を出すことが知られている。有用種でカマボコ等の練り製品の材料になる。